

私のおじいちゃん

小学校五年

私のおじいちゃんは、大工の仕事をしている。毎日、大きい音のする道具を使っていることもあり、七十歳になってから少しずつ耳が遠くなっていて、話が上手く通じない時がある。そのことをおじいちゃんに伝えると、

「もっと大きな声で、はっきりと話をしてくれないからだ」と言った。

この間も、食事をしながら学校であったことを話している、

「明日は、天気だ」

と別の答えが返ってきた。みんなびっくりして、少し強めの言葉を返し、おじいちゃんは、しょんぼりした顔をしていた。

外に出かけた時にも、大きな声で話している人を見かけたことがある。初めは、「どうしてだろう」と思っていた。

そんな中、私は、学校の総合学習の時間に、お年寄りについて調べ学習をした。そこで、年をとると耳や目、足など、体がおとろえてきたり、記憶力が低下したりしてくることを学んだ。毎日仕事をして、元氣そうに見えても、困っていることがあるんだと考えるようになった。

あの時、おじいちゃんの気持ちも理解しようと思わず、強い口調で言ってしまったことを振り返った。おじいちゃんは、きつとつらかったのだと思うと、申し訳ない気持ちになった。

先日、おじいちゃんが受けた健康診断で、高い音を聞き取りづらくなっていると言われたそうだった。

私は、もっともとおじいちゃんといっぱいお話をしたいので、大きい声ではっきりとした口調で話しかけたい。

「おじいちゃん、これから体を大事にして長生きしてね」